

「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（案）」に関するパブリックコメントについて（実施結果）

1 募集期間 令和5年12月25日（月）から令和6年1月23日（火）まで

2 募集結果 22件（20個人、2団体） 74項目

3 提出された意見等への回答

安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（案）につきまして、具体的かつ熱意あるご意見・ご要望が多々寄せられました。

多岐に渡るご意見を頂き、誠にありがとうございました。

いただいたご意見の要旨とそれに対する回答は、下記のとおりです。

※ご意見は分割記載している場合があります。

ページ	分類	項目数
P1	1 拠点の機能について	10
P4	2 構想の進め方	14
P8	3 ゾーニングについて	3
P10	4 明科駅・駅前の活用(にぎわい合流ゾーンについて)	7
P12	5 里山(自然満喫ゾーン、歴史・文化散策ゾーン)【トイレ・駐車場】	5
P14	6 里山(自然満喫ゾーン、歴史・文化散策ゾーン)【その他】	8
P16	7 歴史・文化の活用	5
P17	8 構想全体へのご意見	12
P21	9 その他のご意見	10
項目数（意見数）合計		74

安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想（案）に関する意見等一覧

1 拠点の機能について				
分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
1	1	○	<p>人口減、働き手不足、2024年問題、働き方改革、DX推進など社会環境の大きな変化の中で、どのような施策を行っていくことが、将来の安曇野市にとっていいのか正直言って判断は難しいと思える。</p> <p>アウトドアという視点だけに絞るのではなく、複合的な目的要素を持つことで、関係人口の拡大に繋げることが可能になるのではないかと。</p> <p>立科町観光協会では、企業のチームビルディングを目的に宿泊、ワーキングスペース等を結合させた旅行商品を造成し、直近で1,300万円の売り上げと聴く。</p> <p>安曇野市でも対応できる素材がそろっている中で、テレワーク等に対応するワーキングスペースの提供という点では検討の余地がある。</p> <p>観光や体験という単一の取組みからの誘客に、新たな働き方のスタイルを提案するなど複合的な視点にたった新たな関係人口の創出という新たな取組みの可能性をこの計画の中に組み込むことが可能ではないかと。</p> <p>将来的に従前の働き方だけでなく、多様な価値観が今後の地域づくりには必要になってくる中で、テレワークなどの多様な働き方を可能にするソフト、ハード両面での取組みは必要ではないかと。</p> <p>安曇野市の総合計画（後期計画）や観光振興ビジョンの中にリゾートテレワークという取り組みが盛り込まれているが、どのようにそれを展開していくかを考えた場合に、行政施設の中にワークスペースなどのハード面の設備を持たずして、民間だけの力で推進するのは難しい面があるのでは。</p> <p>ワークスペースであれば、大きな投資を必要とはせず、供用的に利用できる場所があれば運用が可能ではと推測できる。</p> <p>よって、センターハウスの計画があるので、その施設の中に包含させる、あるいは空き商店などを活用するなどして、安曇野市の先駆的な取組みの核として体験的な要素の強いアウトドア構想の中に、働く場の確保という仕組み組み入れることは可能か？</p> <p>論理の飛躍という意見が出るのも承知、二兎を追うものは一兎をも得ずという格言もあるが、総合的に検討いただけないか。</p>	<p>企業のチームビルディング等研修の受入れは、今後活用可能性のあるコンテンツです。</p> <p>ご指摘を踏まえ、P21表中「にぎわい合流ゾーン」の「取組方針」に、「教育旅行や企業研修の受入」を追記します。</p> <p>なお、現在明科でコワーキングスペースを行っている事業者がいることから、拠点施設に同様の機能を包含する予定はありません。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
1	2		○宿泊施設について 基本構想案の中では宿泊機能等の充実としていますが、センターハウスにはその機能は持たせないのでしょうか。 基本構想の中では、市としての整備は考えて居ないのでしょうか。 宿泊施設整備についての考えをお聞かせ下さい。	センターハウスの宿泊機能に関しては、今回の拠点整備場所が都市公園内であることから、都市公園法の規制も加味し、施設規模や具体的な機能等を検討してまいります。
1	3		P24の静水エリアの整備に付いての意見です。 内容は池の水を水産試験場の排水から地下水にしてほしい。	地下水への転換も一つの案として想定しています。実現可能性も含め今後基本設計の中で検討してまいります。
1	4		P26のセンターハウスはきれいな水の池と融合したデザイン？が楽しいのでは。	池で遊ぶ子どもをセンターハウスのカフェから眺められるような距離感を想定しています。ご意見は設計の参考とさせていただきます。
1	5		●市民憩いの都市公園との共存について 龍門淵公園は安曇野明科住民が長年利用してきた都市公園であり野球場 テニスコートあやめ園など不特定多数が利用する施設が混在しており今回のプロジェクトはアウトドアと言ってもリバースポーツ関係者の利用に特化しておりそこへ来てさらに芝生広場にビーチバレーのコートを設置するなどますます目的の軸をずらし利用者混乱させる結果に至っていると断定せざるを得ない。 利用者数を増やしてもそのキャパシティに耐えられる駐車場確保の手段や計画が全く明記されておらずこれまで存在しなかった混乱が生じるのは明白である。 またそれぞれ利用する関係者の動線が混在していて棲み分けや交通整理が全く考慮されておらず相互にブッキングが発生し混乱やトラブルに拍車をかける結果に至るのは明確である。 例えば計画では犀川をリバースポーツの上陸しやすい港として考えているがラフティングボートのお客やリバースポーツの関係者は堤防道路を横断することになり堤防道路を走行する一般車両と交通事故発生させるリスクは大きくなる。 もしも事故が発生した場合はこの計画を推進した関係者の道義的責任は免れない。 さらには令和5年4月に発生した12歳の地元住民が犀川で足を滑らせ水難事故を発生させた痛ましい事実は地元大きな衝撃を与えたのは記憶に新しい。 犀川をリバースポーツ関係者に利用しやすい環境を整えるということは単純に考えればこのような事故をますます誘発する環境を提供するリスクも発生させるということであり計画を推進させている関係者はこの現実をどのように整理していくのか？ それによって生じる混乱の矛先は長年リバースポーツの利用やイベント開催続けてきた者に真っ先に反発の矛先を向けられるのは必定である。 この部分は推進させた関係者がきちんと責任を明確化させる覚悟を持って進めていただきたい。	今回拠点を整備することで、犀川堤防を含めた周辺一帯の動線や交通ルール等について、改めて関係者と検討するとともに、市民に向けた交通安全や水難防止教室等の普及に取り組みたいと思います。 駐車場については、拠点の候補地選定にあたり駐車場も含めた面積で必要面積を算出しており、平常時に拠点や公園を利用する方、河川を利用する方についての台数は、現状周辺エリアにある駐車場でカバーできるものと考えております。 一方でイベントや合宿利用で拠点を利用する団体が大人数でご利用される場合には、現状の駐車場台数では不足する可能性が高いため、臨時的な駐車場を整備するなど今後検討を進めたいと思います。
1	6		○徳島県大歩危にRiverStation West Westという観光拠点がある。施設内には、祖谷そば店、お土産店、徳島らーめん店、アウトドアショップの4店舗が営業しているほか、大歩危のロケーションを活かした「ツリートレッキング」や「ラフトボート」などの体験型アクティビティをはじめ、展望台やバーベキューハウス、ドッグランなどの設備が充実しており、東部アウトドア拠点もこの姿を目標にすべきではないか。 RiverStation West West (west-west.com)	先進事例の一つとして、整備の参考とさせていただきます。

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
1	7		<p>●合宿施設 カフェを併設した建物の設置について</p> <p>リバースポーツの拠点ということで今回 約700平方mの建物を建設する予定であるとのことであるが、30年間 この公園でリバースポーツのイベント開催してきた経験から リバースポーツが利用されるのは 春先から秋にかけてであり 冬は全く利用される可能性がない。地元の会議などにも利用するとのことであるが すぐ近くに 明科 総合支所やひまわりの施設が存在しているにもかかわらず わざわざ 新たな施設を建設しても 維持費 その他が負担を増すばかりで たとえ 補助金で 建設できたとしても その維持存続の 必要経費を考えた時 サスティナブルの観点から 持続可能とは思えない。</p> <p>その結果 地元住民から リバースポーツ関係者に対する反発の 大きさは計り知れない。</p> <p>それに対して推進する 関係者は 明確な 釈明と責任を取る覚悟はあるのか？</p> <p>全くもって 時代の流れに逆行する発想が 昭和の 感覚と言わざるを得ない。</p> <p>建設するならば 夏場だけ利用できる仮設の 他のイベントにも 汎用性がある建物が望まれる。</p>	<p>拠点については、リバースポーツを目的とした利用だけではなく、市民の憩いの場や地域の魅力を発信する場となることを考えております。P16「④滞在・周遊環境の不足」で示した通り、明科地域には滞在・周遊を促す拠点が無いことが課題としてあげられており、明科地域の「コト」や「ヒト」を生かして、市民や来訪者が広く楽しめる拠点を検討していきます。</p> <p>また、持続可能な視点は重要であると考えており、施設の整備だけでなく拠点の運営や地域との連携事業を行うマネジメント組織づくりにも併せて取組みます。</p>
1	8		<p>●センターハウス機能の充実</p> <p>(1)堤防道路より低い位置のため、北アルプスや犀川の眺望を生かせるように2階建て以上の建物が望ましい。</p> <p>(2)堤防から直接施設への接続が可能な2階部分へのウッドデッキや連絡通路の設置。</p> <p>(3)リバースポーツは、冬季の利用者が極端に減少するため、センターハウス利用者の減少も懸念される。センターハウス内に冬季でも市民が集い遊べる機能を持たせて欲しい。例えば室内ボルダリングやアスレチックなど、...</p> <p>(4)情報発信について明科駅にその機能を考えているが、センターハウスにもトレッキングコースやサイクリングコース、安曇野の見どころや観光地を紹介する掲示板を設けて欲しい。</p>	<p>いただいたご意見は、基本設計の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、室内ボルダリング施設は、交流学習施設「ひまわり」内に施設があるため新設の予定はありません。</p>
1	9		<p>●施設機能の多様性</p> <p>数10年前から前川を中心としたカヌーやリバースポーツが行われてきたが、ほとんどの地元市民に経験なく、興味もあまり無いように思える。リバースポーツは重装な道具を必要とし、川に入る恐怖心や濡れるわずらわしさからハードルが高いスポーツと思われる。施設利用を高めるなら、徐々に施設機能を増やし、気軽に体験できるスポーツ施設の充実をお願いしたい。</p> <p>例えばスケートボードパーク、3onon3 バasketコート、ドッグランなど、...</p>	<p>今回の拠点整備をきっかけに、カヌー等リバースポーツを身近に体験、継続できる体制づくりをしていきたいと考えております。</p> <p>付帯する施設についても、コンセプトにもある「水郷」の面を明科地域の強みと捉え、水辺体験に主眼を置きたいと考えております。</p>
1	10		<p>P25～P26</p> <p>○本計画と犀川の活用の関わりについて</p> <p>本計画では東部アウトドア拠点を活用したカヌースラローム競技を中心とした整備が主であり、その横を流れる犀川の活用について具体的な計画が示されていない。カヌースラローム競技だけではなく、学習旅行や一般観光客の誘客のため、犀川を活用したリバーアクティビティの計画は必要であると考え。</p> <p>・カヌー競技者以外にも幅広いターゲットを誘客するため、観光マーケティングを活用しながら旅行者の需要等も考慮する必要がある。</p> <p>・犀川のラフティング・川下りなどを実施する場合、スタート・ゴール地点の整備が必要である。現在もラフティングで活用されている豊科県民グランド脇の万水川・三川合流地点については、明科地域の整備計画からは外れるが、体験の実施のためには必要な整備であると考えられる。</p> <p>・川下り・ラフティングができる学習旅行誘致を目的とする場合、下記の拠点整備も考慮する必要がある。</p> <p>例：1クラスが同時に着替えができる部屋</p> <p>例：複数人が同時に利用できるシャワー</p> <p>例：貸切バスが複数台停車できる駐車場及び大型バスが入っていくための道路整備</p>	<p>本拠点は、前川のカヌースラローム競技だけではなく、犀川を利用したウォーターアクティビティも想定しており、レンタルや更衣室・シャワールーム等の機能整備を考えています。教育旅行等の団体利用も視野に入れ、観光需要等も考慮しながら今後検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>なお、犀川は国の管理となっており、スタート・ゴール地点等の整備についても国との協議連携が必要となります。P29でお示したとおり、「かわまちづくり支援制度」に登録し連携して進めていく予定です。</p>

2 構想の進め方

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
2	1		<p>(全体を通して)</p> <p>主目的は安曇野市全体の中でも特に高齢化および人口減少が進む明科地域の課題を改善する事にあり、その解決策のひとつとして従前より盛んに行われているアウトドアアクティビティを活かす事で交流人口を増やし、移住定住につながるための整備を行う事にあると考えます。</p> <p>今回の基本構想ではこの事に対してどのようなアクションをとるかについては明確にスケジュール化されていないと感じます。</p> <p>P.31の3項、4項に記載されている事はあくまでも学習や体験を通して、水を中心としたアウトドアアクティビティに対する市民の理解を深める方針のみで、この取り組みを通して子供たちが将来安曇野に住み、環境を活かした事業展開を行う方策については記載がありません。</p> <p>この拠点整備を明科地域のまち中心で行う事によって、地域にどのような経済効果もたらされる事を期待しているのか、さらに、にぎわい合流ゾーンを核とした安曇野市東部のまちづくりにつなげるのかを構想の中に加えるべきではないかと思えます。</p>	<p>本構想は東部アウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、拠点整備後の取組みは概要のみ記載しております。</p> <p>子どもたちが将来安曇野に住みたいと思えるような体験や学習機会の提供など、具体的な取組については、今後学校や関係部局と協議しながら検討していきます。</p> <p>また、構想に詳細は記述しませんが、経済効果については、施設やイベントの売上等の直接効果だけではなく、地域資源の利活用による地域産業の需要増加、雇用者数の増加、長期滞在者、移住者の増加などの間接的な経済効果も見込んでおります。</p>
2	2		<p>P 9 <明科のヒト></p> <p>コトを動かしている団体や明科を盛り上げる為に組織された団体というところで</p> <p><明科のヒト>をもっと掘り下げて団体同士のコミュニケーションを取り合い横のつながりを深めてフットワークの軽い動きが取れるように進めて欲しいです</p> <p>せっかくの各団体を上手に明科おこしを進められる様に音頭をとって欲しいです</p> <p>明科各区においての興味を深めて行くと思うので 明科全体としてこのアウトドア拠点整備を捉えるようにしたいです</p> <p>拠点整備が明科駅前の問題と捉える遠方の人が多いと思うので 各区からの参加、各区からの興味を持って貰えるようにもっと企画して欲しいです</p> <p>そのためには 各区長の会議参加は必要不可欠と思えます</p>	<p>明科全体を盛り上げていくためには、地域の団体や住民の皆様を巻き込んでいくことが大切だと考えています。皆様から多くのご理解をいただけるよう、イベントやワークショップ等様々な機会をつくりながら進めていきたいと思えます。</p>
2	3		<p>・ P 8 : <明科のヒト></p> <p>各区との情報共有が必要と思う。</p> <p>(区役員以外に浸透していない)</p>	<p>情報共有については、広報等のほかにP30に記載のマネジメント組織が行う地域連携事業の中で連携を図ってまいります。</p>
2	4		<p>●地元住民の リバースポーツ文化の普及について</p> <p>計画の中で 地元のカヌークラブを作り 龍門 測のカヌーコース 利用推進をしていくような 内容が記載されているが そのような計画は30年以上前の明科町 時代から何度も あらゆる 計画を立て トライシ 実践してきたが 地元住民は 川が身近にある分だけ 川の怖さを熟知しており なかなか 定着に結びつかなかった プロセスの事実が存在する。</p> <p>今回のプロジェクトには 元オリンピック選手が 意見していると推測できるが、 このオリンピック選手が 自分のような 凡人と違い 万能で何もかも 成功させることができると 行政関係者やその他 関係者は 彼を マジシャンのように 盲信しているのではないかという感が歪められない。</p> <p>この地域に リバースポーツを普及させていくのは その経験のない 行政関係者や コンサルタントや その他関係者が 机上の空論 で考えているほど決して簡単ではないという覚悟を持って臨んでいただきたい。</p>	<p>ご指摘のとおり認識しております。</p> <p>P30にお示したように、今後拠点のマネジメント組織を作る中で、地域内外の活動団体との連携も想定しております。現在カヌークラブ立上げの動きも民間から出ていますので、そういった皆様とも協力しながらリバースポーツの普及、定着に繋げてまいります。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
2	5		<p>●龍門渚の河川 改造について</p> <p>カヌーなど リバースポーツの スタート地点に利用されている龍門渚の渦付近は 龍門神社の御神体となっているなど 歴史的に古墳時代からの 遺跡が発見するなど 神聖な場所として地元の人々に崇め立てられてきた場所である。</p> <p>またかつては 漁業組合員による 投網の瀬つけ漁の漁場でもあり 漁業関係者と長年 利用についてトラブルや その調整に明け暮れた歴史的経緯がある。</p> <p>龍門神社の 氏子の皆様や 漁業組合員の中には リバースポーツ関係者が利用してきた中で 川の中に無断で石や コンクリートを投入したり 河川の土を勝手に削ったりする行為に対する 憤りの感情が 少なからず 存在し 自分自身がその調整に走り回ってきたが それらの 調整事項は今後誰が継続していくのか？</p> <p>今後ますます それらの事情を知らない 不特定多数の リバースポーツの利用者が無遠慮な 利用を継続した場合 その責任は 今回のプロジェクトの推進した担当者が 事態収束をする覚悟があるのか？</p> <p>説明会の中で おそらくそのような 事情を知らない 参加者から「見栄えの良い 栈橋のようなものを造って欲しい」 みたいな発言があったが 長年龍門渚を大切にしてきた 地元住民の人たちの思いや 歴史的文化を 無視して開発する行為は 地元の反発を招き遺恨を残す 結果になるのは必定であり 極力 現状維持の中で 利用しやすい環境を 推進すべきである。</p> <p>リバー スポーツ関係者は 長年龍門渚を 大切に守り 維持してきた ネイティブの人たちの 宝を 利用させていただくという 謙虚な 立ち位置を 今まで続けてきたからこそ 30年以上継続できたことであり そのバランスを崩せば 大きな 禍根を残し 将来必ずや 存続は難しくなるのは必定である。</p>	<p>施設の整備や龍門渚周辺の活用にあたっては、地元の皆さまへの説明や調整はしっかりと行っていかなければならないと考えております。これまでの経緯等いただいた貴重なご意見を参考に、引き続き取組んで参ります。</p>
2	6		<p>●高森町の進捗について</p> <p>2028年 長野国体カヌー競技 会場に予定されている 高森町であるが 高森町は長年 安曇野 明科龍門渚を ロールモデルとし ディテールを研究しており 自分たちのストロングポイントや ウィークポイントをよく 研究している。</p> <p>彼らもカヌースラロームの人工コースを計画しており その付近敷地には 国体 ビーチバレー競技の会場や キャンプ場エリア が 計画されている。</p> <p>公園を整備するために リニアモーターカー トンネル建設の残土が 活用され 将来 リニアモーター 駅開発による 地域活性化の起爆剤として 国体 開催地 誘致が計画されている。</p> <p>同じ長野県のエリアに 同じ 目的と テーマで 建設された施設が ほぼ同じ時期に建設され 必然的に競合しなければならない。</p> <p>カヌーなど リバースポーツ愛好者の関係 人口は 今後 劇的に増えることはなく 利用者の奪い合いを同じ長野県で行われることになり 国体開催地の 潤沢な予算を投入できる高森町と比較すると 同じ土俵で競った場合 安曇野市は限りなく不利 である。</p> <p>安曇野 ならではのオリジナルスタイルのリバースポーツの魅力を発信せねばならなくなるが これに関して 推進する関係者はどのように考えているのか？ ビジョンを説明いただきたい。</p>	<p>高森町の動きは承知しており、双方で協力を行っていただけるように、今後進めていきたいと考えております。</p> <p>本構想は、明科における人口減少を背景に、明科に関わる人を増やしていくことを目的として策定をしております。そのため構想内に記載をしている通り、観光に限らず、企業研修や学校と連携した人材の育成にも重点を置いている点が高森町と異なる点であると理解しております。</p> <p>また、空や里山、その他アクティビティとも連携することで、訪れる度に何度でも明科の魅力を発見できる滞在の提供ができると考えています。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
2	7		<p>過疎地域の指定を受けた明科地域について、持続可能な発展を促進するために「アウトドア拠点の整備」が提案され、あり方や整備の方向性についての基本的な方針が示されたことに大きな異論はありませんが、明科地域の過疎化を食い止め、本来の人の流れを作っていくことを目的とするのであれば、はたしてこの構想（案）はどのように寄与できるのか危惧します。</p> <p>構想（案）は人の交流、観光面に重きをおいてイベントや各種大会などを通じてにぎわい創出は可能ですし、コンセプトにある各ゾーンが結び付くように整備計画が進行することを願っています。そして、それらの施策が一過性ではなく恒常的に明科地域に活力と恩恵をもたらすことを期待します。一方で、明科地域の住民の多くは過疎化には危機感以上のあきらめを抱えています。ただ、過疎化指定によって道路整備、河川等の災害防止工事に予算を投じられることを期待するなど、それぞれの立場に沿って利得権益を得ようと考えている人はいるのも事実ですし、一般住民もそうあって欲しいと思っている人は多くいます。アウトドア拠点整備基本構想には地域住民は無関心です。明科の過疎化、衰退は仕方ない、行政（明科町当時）からは対策を打って来なかったと勝手に思い込んでいて、自分たちも人任せだった住民にいざ構想や計画を示すと「知らされていなかった」「そんな話しではなかった」とか異論や反対意見が出るのが予見されます。市は一回の住民説明会ではなく、広報等で更なる情報発信をする必要があります。また、アウトドア拠点整備が一部の、地域にのみの利益に資することなく「公共の利益」につながることを丁寧に分かりやすく説明していく責任があります。明科駅前の整備をどう進めていくのか地権者や周辺住民との具体的な議論の場を設けることが先決です。銀行が撤退するなど厳しい状況下ですが小売店や飲食店、宿泊施設整備など多くの人が納得する形で進めていってほしいと思います。アウトドア拠点であると同時にコンパクトシティ化を標榜することを望みます。</p>	<p>アウトドア拠点は、市民にとって明科に対する誇りと愛着を一層深める場となることを目指しています。ご指摘のとおり、拠点整備に向けて市民の皆様への丁寧な説明と情報発信は非常に重要であり、引続き広報等を活用し情報共有を図りたいと考えます。また今後、基本設計等の検段階においては、地元への説明の場も設けていきたいと考えております。</p>
2	8		<p>P31</p> <p>3, まちと市民の機運醸成に、「明科でこれから起ころうとしていることを自分ごと化し、さまざまなフェーズで“知る”“体験する”ことが重要」であるとしながら、「拠点の設計や河川の設計とは別に〜〜具体的な事項を話し合う」とはどういうことなのか理解に苦しむ。どのような拠点にするかということに市民は関われないということか？「かわまち委員会」がそれに該当するといのであれば、基本設計に先駆けて委員会による具体的な検討が必要ではないか？それとも本基本構想をもって基本設計に進めると考えるのか？</p> <p>先にも述べたとおり、3回のワークショップで方向性が煮詰まったとは考えられない。龍門淵・アヤメ公園周辺をアウトドア拠点の中心として整備することを前提として、改めてワークショップを開催して意見・アイデアを集約する必要があるのではないか。</p>	<p>基本構想を踏まえて基本設計に入っていきますが、拠点の機能や河川周辺の活用方法については「かわまち委員会」等を通じて、市民の皆さまからご意見やアイデアをいただく機会を検討したいと考えております。</p>
2	9		<p>●施設の賑わい維持</p> <p>(1)施設の利用者と知名度UPのため年に数回のアウトドアスポーツに関するイベントを開催してほしい。例えば、リバースポーツ体験会（カヌー、サップ、ラフティング）、キャンプグッズやテント設営体験会、マウンテンバイクサイクリング体験会、トレッキング体験会など</p> <p>(2)安曇野市内の小中高生やその親を無料招待、または授業に組み入れて、アウトドアスポーツの体験会を実施し、知名度UPと利用者数UPをしてほしい。</p>	<p>P31の「3 まちと市民の機運醸成」、「4 子どもたちの教育・学校連携」に記載したとおり、各種体験会や学校との連携を進めていきますので、いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p>
2	10		<p>●若年者との意見交換会の必要性</p> <p>基本構想作成にあたり、学生を交えた意見交換会は実施したのでしょうか？</p> <p>アウトドア拠点の情報発信や利用者数UPには、若年者に施設を利用していただくことが必要であるため、若年者が楽しめる、集える施設を作るべきと考え、高校生や中学生に意見を聞く機会を設ける必要があると思う。</p>	<p>基本設計に移る段において、高校生等に意見を聞く機会を設けたいと考えております。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
2	11		<p>P26</p> <p>○カヌーについて 龍門淵公園・あやめ公園でのカヌーのスラローム競技を中心とした整備を検討されている。</p> <p>・調べたところスラローム競技は競技人口も少なく、その競技人口を誘致するメリットが見えてこないため、水に関するアクティビティを楽しみたい一般客や学習旅行誘致など幅広い層の誘客のための体験プログラムも考慮する必要がある。</p> <p>・幅広く水のアクティビティを体験できる施設になることで、安曇野市で活躍するラフティングなどを行っており事業者も携わることができ、地域経済全体の活性に寄与する施設となると考える。</p>	<p>P30の「2 運営主体の整備」でも触れているとおり、施設を整備するだけでなく、ここを運営し賑わいを創出していくための組織を立ち上げる予定です。</p> <p>このなかで、各種体験プログラムの造成や、ウォーターアクティビティ提供事業者との連携など、ソフト事業の充実を図ります。</p>
2	12		<p>P31</p> <p>・東部アウトドア拠点の利用者増加に向けては地域をあげてのカヌー競技人口の拡大が必要であり、地域クラブの創設や学校と連携した普及が必要であると考えますが、同時に学校の授業等でのカヌー体験など教育委員会等と連携した計画も本整備計画と同時に進める必要がある。</p>	<p>カヌー体験など指導者の確保が可能な体制が整備された際には、学校との連携も検討します。まずは体制の整備に向け、拠点のマネジメント団体や地域クラブの立上げを支援してまいります。</p>
2	13		<p>P27</p> <p>○地域との連携性について</p> <p>・市内在住のガイド事業者と来訪者を施設がどのように結び付けていくのか見えてこない。情報発信、オペレーションは運営管理者がやっていけるのか。</p>	<p>市内在住のガイド事業者には、運営管理者と連携しながら情報発信やアクティビティを提供していただきたいと考えております。</p>
2	14		<p>・アウトドア拠点のコンセプトと3つの基本方針を実施するにあたり、年度毎に効果測定を行い、達成度合いを市民をはじめ多くの人に周知してもらいたい。</p>	<p>基本設計を経て拠点施設の詳細が固まった時点で目標を定め、効果測定を行い達成度等事業の進捗や現状を発信していく予定です。</p>

3 ゾーニングについて

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
3	1	○	<p>P21 各ゾーンの活用できる資源、活用の方向性、取り組み方針の整理が不十分。とりわけ「歴史・文化散策」と「自然満喫」ゾーンは、「巡る」というコンセプトに引きずられてゾーニングした観が強く、切り捨てられた活用資源もあり、必ずしも基本方針とマッチしていない。</p> <p>「にぎわい合流ゾーン」 遊水池近辺にある自然体験交流センターせせらぎの活用と連携を考える必要がある。せせらぎに収納されている子供用カヤック等も施設を含めてあまり活用されていない印象がある。</p> <p><活用できる資源> ◆自然体験交流センターせせらぎ ◆明科廃寺等の考古学的成果（歴史・文化散策ゾーンと重複） <取り組みに加えたいこと> ◆せせらぎとの連携・活用 ◆まちなかに考古学散歩の案内看板等の整備 ◆アウトドア専門学校の誘致または設立 ◆釣り客への対応</p>	<p>「自然体験交流センター「せせらぎ」」については、P21表中「にぎわい合流ゾーン」の「活用できる資源」欄に追加します。専門学校の誘致や設立の想定はありませんが、地域クラブによる人材育成を行えるよう検討してまいります。</p> <p>なお、今回の構想はアウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、その他の取組みについては概要のみ記載しています。拠点以外での事業の詳細は、今後拠点を起点とした連携事業を実施するにあたっての参考とさせていただきます。</p>
3	2	○	<p>P21「歴史・文化散策ゾーン」 活用できる資源として上げられているのは、旧篠ノ井線廃線敷のみとなっているが、廃線敷のみで歴史・文化をゾーンとしてイメージすることは困難で無理がある。安曇野の古都ともいべき明科を起点に外部に繋がる潮沢峰通りや川手道等の沿線を加えたら如何か。</p> <p><活用できる資源> ◆明科廃寺等の考古学的成果 ◆往時、善光寺道と言われた潮沢峰通り、川手道 <取り組みに加えたいこと> ◆まちなかに考古学散歩の案内板 ◆街道に案内看板 ◆廃線敷に「ミニ鉄道博物館」</p> <p>P21「自然満喫ゾーン」 長峰山周辺のみを自然満喫ゾーンとするのは疑問。岩洲公園やケヤキの森も該当するのではないか。さらに将来的には押野山の活用も視野に置くべき。</p> <p><活用できる資源> ◆岩洲公園とケヤキの森 <取り組みに加えたいもの> ◆長峰山周回コースの整備 ◆岩洲公園内の峰通りの整備（案内板・標識の設置）</p>	<p>岩洲公園及びげやきの森自然園については、P21表中「歴史・文化散策ゾーン」の「活用できる資源」欄に追加します。</p> <p>周遊コース、峰通りの整備については、上記表中「取組方針」に記載の「ルートの環境整備」にてお読取りください。</p> <p>なお、今回の構想はアウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、各ゾーンでの取組みについては概要のみ記載しています。拠点以外での事業の詳細は、今後拠点を起点とした連携事業を実施するにあたっての参考とさせていただきます。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
3	3		<p>●ゾーニングについて</p> <p>明科地区をもっと広範囲にみて資源を活用したゾーニングが必要であると考えます。</p> <p>例えば、自然を満喫できる場所は押野山荻原地区においても素晴らしい遊歩道を地元の方が整備しており、岩洲公園にも白砂青松の景観がある等々。歴史文化でいえば、清水地区の光久寺には県宝の仏像や建築物、吐中のオオツノジカの化石の見つかった地層、塔之原城址、北村遺跡など時代的にも様々なスポットがある。</p> <p>現在のようなゾーニングすることによって廃線敷に絞ってしまえば、ほかの資源が見失われてしまう恐れがある。明科地区内に分散しているそれぞれの個所の魅力を発信し、ネットワーク的につなげることによって、今度はここに行ってみたい、あるいはこのコースに行ってみようといった、何度も来てみたいところにするのも大事だと考える。</p>	<p>ゾーニングについては、明科地域内でも知名度が高く来訪者も多い箇所を起点に、取組みの方向性をイメージしやすいよう設定しております。</p> <p>明科の里山に点在する遊歩道や歴史的スポットは、関係人口の拡大においても重要な地域資源と捉えております。これらの魅力発信やネットワーク化については、今後ソフト面の充実や体験コンテンツの造成に合わせ検討してまいります。</p>

4 明科駅・駅前の活用（にぎわい合流ゾーンについて）

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
4	1		<p>概論は大変良く分析されていると思います。そのうえで、具体的にどうしていくと地域住民の発展もありうるのかが重要です。私は、焦点をしばって、ウォータースポーツ拠点とそれにまつわる商売の展開が現実味があると思います。</p> <p>来るかどうかは別として、駅前空き地に隈研吾作のモンベル店舗があり、カヌーとかキャンプ、マウンテンバイクなどが置いてある。そして、明科駅周辺の空き家にはその拠点の賑わいを求めて新しい居住者がやってくる、というようなイメージが浮かんできます。そうなることで、次の世代の人々が新しい明科駅周辺を盛り上げていくような、もちろん、昔から住んでいる方々もその動きに乗かって商売などをしていくと全体で盛り上がると思います。地域を挙げて盛り上げていきたいものです。</p>	<p>ご指摘のとおり、本拠点はウォータースポーツを基軸に地域のアウトドア資源を結び、賑わいを創出することを目指しています。本構想を基に整備する拠点から地域の賑わいが生まれることで、これが呼び水となって駅前の立地を生かした民間による有効な活用につながればと考えています。なお、明科駅前の空き地は民間所有の土地であり、ここを市が取得しての事業は想定しておりません。</p>
4	2		<p>明科駅を拠点として、犀川賑わいゾーンと東山散策ゾーンに振り分け、トレールと招きバスを走らせる事により誰でも安心してアウトドアが楽しめます。</p> <p>明科駅を玄関口にして安曇野観光を楽しむ事も出来ます。大都市から多くの人々が訪れる事により、安曇野地域全体の活性化が図れると思います。</p> <p>構想の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎債を利用してインフラ整備を行う。 ・ JR・JAや観光会社などの運営ノウハウを利用して運営を一任する。 ・ アルピコなど有力なスポンサーを募る。 ・ 地元にとことん拘る。 <p>関連アイテム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前広場にセレブを対象としたタワーマンション（アルピコタワー）を誘致。 <p>大企業を退職して、余生を田舎暮らしで満喫したいと望んでいる人 自然豊かな安曇野を拠点にグルメ・観光三昧の第二の人生を望む人 ショートステイのゲストハウス（都市と田舎の二元生活を望む人） 介護・メイドステーション。展望・フィットネス・グルメタウン。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅の活性化 <p>田沢-松本の複線化で、明科-塩尻間を往復するタウントレインを走らせる パーク&ライドで乗客を増やして駅前を賑やかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的な観光地 <p>長野・松本・安曇野と広域的に連携して首都圏・中京関西圏・北陸から誘客 ジンギスカン街道一丁目、そば街道、おやきの故郷</p>	<p>駅の活性化や広域的な連携については、構想P30にお示したマネジメント組織が取組む地域連携事業の参考とさせていただきます。</p> <p>その他インフラ整備や民間の運営ノウハウの活用、タワーマンション等のご提案については、今回のアウトドア拠点整備とは別の課題となりますので、ご意見として今後の参考とさせていただきます。</p>
4	3		<p>P23 明科駅の機能と整備方針</p> <p>明科駅について、情報発信に限定した表現となっておりますが、安曇野の東の玄関口として、他地域との交通拠点であることを明確にすることが重要です。特に観光拠点である穂高駅とのアクセス強化は大きな課題であり、中房線や周遊バスの乗り入れについても検討が必要だと思えます。</p>	<p>アクセス強化に関しては、市の公共交通計画に基づき、今回の構想エリアだけではなく市全体の仕組みの中で検討させていただきます。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
4	4		<p>P.22～ではにぎわい合流ゾーンの導入機能と整備方針が示されています。 車社会は当分続くと思われませんが、駐車場の考え方が示されていません。 市の新しい総合体育館建設時にも指摘しましたが、昨年(2023年)9月に豊科南部総合公園で開催されたイベント時には公園と体育館は満車で周辺道路に車があふれていました。 駐車場の確保は平らな部分が少ない明科地域が持つ既存の課題です。 既存の場所だけでなく、会田川沿いにある明科公民館第4駐車場再整備、塔の原から明科寄り国道19号と旧川手道の分岐の下あたりの空き地？、旧明科南こども園跡地などの整備可能であれば構想に記載すべきと思います。 前述の場所はまち中心部から離れますが、例えば昔、木材を運ぶトロッコ道があったところなどは路面電車のようなものを走らせても良いですし、会田川沿いは船で駐車場とあやめ公園を結んでも良いかもしれません。会田川沿い駐車場の対岸(あいらすのある場所)からは廃線敷への動線もできます。 コンセプトにある「巡る」移動手段として冬場でも晴天率が高いため太陽光、河川を利用した水力を電力とした乗り物とし、安曇野ゼロカーボンシティ宣言(脱カーボン)とも合致します。</p>	<p>「にぎわい合流ゾーン」における駐車場については、平常時は現状周辺エリアにある駐車場でカバーできるものと考えております。 一方でイベントや合宿利用などの場合には、現状の駐車場台数では不足する可能性が高いため、臨時的な駐車場を整備するなど今後検討を進めたいと思います。 ご提案の移動手段については、アイデアとして参考にさせていただきます。</p>
4	5		<p>p.28には管理運営方針が示されています。 これを見るとにぎわい合流ゾーンを中心とした主にセンターハウスの運営と読み取れました。民間事業者が発注を考える場合、ゾーン全体のおおよその集客数のイメージが必要だと思います。アウトドア事業者は事務員以外は一日建物に詰めているわけではありません。事務もスマホで受けられるため事務員を置く事のない事業者もいるでしょう。 受付時には多くのお客さんで溢れ、そこに一般観光客などがはいる事も繁忙期には想定されます。食事処と異なるのはスタート時間が決まっているので分散できない事です。 学校対応など考えると大きな箱ものが要ります。着替えスペースもそれなりの大きさが要ります。男女交替というわけにはいきません。 前川だけ、犀川もと事業者毎にお客さんが異なれば、学校と一般が入り組むこととなります。そこに他のアウトドアのお客さんの受付がはいる。トイレ混雑の問題も発生します 構想の段階でイメージする規模(具体的数字でなくても良い)の提示も欲しいと思います。</p>	<p>新たな拠点における集客イメージとしては、平常時は、カフェや会議室等を利用する人、河川でアクティビティやトレーニングをする人等の利用を想定しています。また、繁忙期は、上記に加えて学校の教育や企業研修、合宿、イベントの利用等を想定しています。 集客数の具体的な規模に関しては、今後拠点施設の基本設計を進めていく中で検討を進めたいと思います。</p>
4	6		<p>明科駅前に観光案内所を造る</p>	<p>整備する拠点内に、観光案内機能を包含していく予定です。なお、明科駅前への案内所設置についてはスペース確保等課題もあり、現時点では想定しておりません。</p>
4	7		<p>P23「3. にぎわい合流ゾーンの導入機能と整備方針」 (3)各ゾーンの機能と整備方針 ②まちなか（空き家活用、飲食・宿泊機能等の充実、案内板の設置） 【意見内容】 アウトドア関連のアスリート育成、ガイド育成のための具体的な施設、それらを補完する賑わう場のイメージと、運営事業者の募集、空き家所有者への説明、まち歩き見学会の活用などを共助して進めていきたい。</p>	<p>空き家対策やまち歩きについては別途取組みが進んでいますので、いただいたご意見は今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>

5 里山（自然満喫ゾーン、歴史・文化散策ゾーン） 【トイレ・駐車場】				
分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
5	1		駐車場やトイレが不足しており、長峰山に道が狭いことで大型バスが入れない	P21表中の「取組方針」欄に「トイレ、駐車場の整備」と記載のとおり、利用者の利便性向上の観点からも、駐車場及びトイレの整備は必要と考えます。なお整備の詳細は、冬季の管理や水洗化にあたっての課題等もあることから順次検討してまいります。道路については、地形的に改善が困難な点も多く、引続き手法を検討してまいります。
5	2		どのポイントについても、トイレと駐車場の整備がまず最優先だと思います。現状では、観光において下さい、と言うにはあまりにもお粗末では。。。たとえば、旧国鉄篠ノ井線廃線敷遊歩道は圧倒的にトイレが足りていません。バスで来る観光客は、潮神明宮でのトイレは可能でも、複数台のバスが入れないのでピーク時は難しいです。第二白坂トンネルの駐車場は、バスは駐められますが、まともなトイレがありません。第二白坂トンネルの駐車場を整備して、団体客にも対応できるトイレの設置が必須だと思います。 (長峰や、関連して光城山の駐車場・トイレも同様です)	P21表中の「取組方針」欄に「トイレ、駐車場の整備」と記載のとおり、利用者の利便性向上の観点からも、駐車場及びトイレの整備は必要と考えます。なお整備の詳細は、冬季の管理や水洗化にあたっての課題等もあることから順次検討してまいります。
5	3		篠ノ井線廃線敷は自然豊かで、基本構想案にも示されていますが、けやきの森自然園や歴史的鉄道遺産が多く残されている、非常に人気のあるハイキングコースです。私達も多くのお客様を案内しています。実際に案内をして一番感じるのは、旧第2白坂トンネル駐車場の設備についてです。各地に設置されている看板やガイドマップでは、出発又は終点の拠点となっていますが、トイレの設備がなく、現在は簡易トイレが一つあるだけです。駐車場の看板もなく、携帯電話の電波状況も良くありません。これらの拠点整備は事業化に向けたスケジュールに沿って実施されていくものと思いますが、旧第2白坂トンネル駐車場のトイレだけは早急に対応していただきたいと思います。お客様はトイレの事を考えて次の目的地に急ぎ、明科地区での滞在時間をとりません。旧第2白坂トンネル駐車場の整備は、旅行者だけでなく、地元の方も快適に過ごせる為に必要だと思います。	P21表中の「取組方針」欄に「トイレ、駐車場の整備」と記載のとおり、利用者の利便性向上の観点からも、駐車場及びトイレの整備は必要と考えます。なお整備の詳細は、冬季の管理や水洗化にあたっての課題等もあることから順次検討してまいります。
5	4		明科廃線敷のスタート・ゴール地点である第2白坂トンネル付近に立派な公衆トイレを設置してほしい。安曇野市の歴代市長は、「観光に力を入れる」と言いながら必要不可欠なトイレなどの施設整備に力を注いでこなかった。是非立派なトイレを設置して、観光客が満足できるような環境を整えて欲しい。	P21表中の「取組方針」欄に「トイレ、駐車場の整備」と記載のとおり、利用者の利便性向上の観点からも、駐車場及びトイレの整備は必要と考えます。なお整備の詳細は、冬季の管理や水洗化にあたっての課題等もあることから順次検討してまいります。

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
5	5		<p>歴史・文化散策ゾーンとして、旧国鉄篠ノ井線廃線敷の活用の方向性と取り組み方針につきましては廃線敷の整備を行っている地元の団体としては賛同して協力していきたいと考えています。</p> <p>取り組みの要望としまして下記により具体的に記します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの整備 白坂駐車場に整備する ・けやきの森自然園東 市有地に駐車場を整備する ・研修施設の建設 歴史・文化を学ぶ 休憩を兼ねる簡素な施設 ・漆久保トンネルの市文化財指定 ・けやき林の整備 定期的な間伐、植樹 ・環境整備 法面の土砂崩壊防止 不要木の伐採 ・民間業者が検討しているバギー車の廃線敷への乗り入れには反対します 	<p>P21表中の「取組方針」欄に「トイレ、駐車場の整備」と記載のとおり、利用者の利便性向上の観点からも、駐車場及びトイレの整備は必要と考えます。整備の詳細は、冬季の管理や水洗化にあたっての課題等もあることから、順次検討してまいります。</p> <p>なお、今回の構想はアウトドア拠点整備の方向性を示すものであり、歴史・文化散策ゾーンにおける整備や取組の詳細までは記載しませんが、いただいたご意見は今後地域全体のアウトドアを推進するにあたっての参考とさせていただきます。</p>

6 里山（自然満喫ゾーン、歴史・文化散策ゾーン） 【その他】				
分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
6	1		<p>P 8 <明科地域の資源を活用した'コト'の1例> 追加希望として ★里山巡り又は遺構を活用した<サイクリングコース> バイキングありガイドツアー、スカイアクティビティありとくればサイクリングも活用素材として追加しても良いのではと思います ワークショップの時からサイクリングが注目されておらず必然的であっても不思議ではないサイクリングと思うのでもう少し積極的に考えて欲しいです</p>	<p>本項目はすでに団体等で取組みが進んでいるコトの例を記載しております。ご指摘のとおり、ワークショップや関係者への聞き取りの中でもサイクリングへの言及が少なかったこともあり、「コト」の例として記載はしていません。 しかし、サイクリングもアクティビティの一つとして連携の可能性はあるコンテンツです。ご意見は、今後ソフト面の充実や地域と連携した体験コンテンツの検討にあたっての参考とさせていただきます。</p>
6	2	○	<p>●長峰山山頂草原について（p7～、p20） 長峰山山頂草原は安曇野市にとって重要な自然資源であり、それを明確に表記すべきである。 長峰山は、環境省の生物多様性保全上重要な里地里山の「重要里地里山」に指定されており、安曇野市のレッドデータブックにも重要な自然環境とされている。特に山頂草原は、今では全国的に見ても貴重な反自然草原であり、わずか0.6ヘクタールほどの小さな草原であるが、標高1,000m以下で一定面積の草原植生が維持され、その結果現在絶滅が危惧されている多様な動植物が生息できている環境として大変希少である。 3賢人が1980年5月12日にここに立って、「残したい静けさ、美しさ」と言って感動したのは、もちろん目の前のアルプスの大展望とその麓の安曇野の景観もあるが、足元に広がる当時はもっと広がった野の花の咲く草原だったと想像する。その草原は大昔から祖先が草刈りを続け、野に咲く花を盆花などとして大切にきた結果残されてきたものである。山頂にある歴史の塔は、明科町時代に当時の町長が過去・現在・未来をイメージして作られたものと聞いているが、山頂草原の環境こそ、過去の祖先が大切に維持してきたものを、未来の子孫のために現在の我々が残していかなければならない。多くの人に里山に関心を持っていただくために、現在の多様な価値観で活用していくことは必要であるが、ただ単に個人の楽しみのための場ではなく、そのベースとして未来に残すべきものを守っていく責任をきちんと果たしていくことをまず初めに宣言していただきたい。また現在、行政・住民・市民団体の協力して草刈りが行われていることで、この草原が維持されていることもしっかり表記していただきたい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、P7「②北アルプスの眺望と長峰山」に下記のとおり追記します。 「平成27年には、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定され、行政・活動団体・住民等の整備活動により良好な里山生態系が保たれています。」 また、山頂草原を維持していくため、関係団体間の要望の調整継続とこの貴重な環境の普及活動を通じて、アウトドアスポーツの振興と自然環境の保護の両立を目指します。</p>
6	3		<p>●里山の整備について 長峰山の価値として、里山という自然自然の価値を明示すべきである。里山を維持していくための部署を超えたしくみが必要である。 構想では長峰山はトレッキングコースの利点が多く述べられているが、長峰山の自然は地元住民、行政、ボランティア団体らが長年保全してきた結果、今の姿が評価されていると考える。 里山は、人間が生きていくための資源を得るため、自然に手を入れることにより作り出された二次的な自然環境である。この時人間は子孫のためにその資源を循環して得られるよう工夫をし、それを代々伝えてきたことによって維持されてきたものである。現代、生活に必要な資源は全て里山からではなく、地域外あるいは海外から得ることができる。そのため、里山に手を入れることがなくなり、里山の自然、生物多様性が失われてきている。 今しばらく松枯れの課題もかなり大きく、安曇野市の耕地林務課でも対応されているが、観光だけにとどまらず部署が連携しながら、里山の保全策を考え、将来にわたって維持されていく仕組みが必要である。その結果として魅力的な自然が維持されることになる。</p>	<p>ご指摘のとおり、里山の環境は多くの皆様の保全活動があってこそ守り伝えられてきたものであり、地域の大切な財産です。今回の構想はアウトドア拠点整備に係る方針を示すものであるため里山整備の詳細は記載しませんが、里山環境をアウトドアの魅力の一つとして守り伝えていくためにも、明科の活性化にあたってはご指摘の観点を踏まえて取り組んでまいります。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
6	4	○	<p>●「天平の森」について</p> <p>アウトドアの拠点として「天平の森」施設を位置づけるべきである。本来、長峰山森林体験交流センターとして作られたものであり、どこにでもあるような単なるレジャーのための観光施設ではなく、里山を学ぶ取り組みの拠点として生かしていくべきである。</p> <p>明科を誇りに思ってもらえるために、地域や子供たちの学びの場をつくっていくことは大変重要であり、賛同する。現在の構想は龍門瀨公園・あやめ公園が中心となり、里山について学ぶ拠点としての機能が乏しいと考える。3. に里山の重要性を述べたが、里山について地域に住んでいる方や他所から訪れる方知ってもらうため、里山の知恵や自然、手入れの仕方などを体験して学んでもらう取り組みが大切である。その拠点として「天平の森」を活用していただきたい。</p>	<p>天平の森に関しては、自然満喫ゾーンの「活用できる支弁」に位置づけております（P21）。活用方法については、関係する皆様と検討を進めていきたいと思っております。</p> <p>また、P21表中「自然満喫ゾーン」の「活用の方向性」の欄に「自然観察」を記載しております。</p> <p>ご指摘を踏まえ、上記に加え「取組方針」欄に「里山体験、森林体験等の提供」を追記します。</p>
6	5		<p>P18～21</p> <p>○明科地域の観光資源の活性化について</p> <p>本計画では東部アウトドア拠点の整備計画はあるが、同じ明科地域である長峰山や旧国鉄篠ノ井線廃線敷の誘客案が掲載されていない。環境・道路整備だけでは利用者は増えないと考えており、現在の安曇野市で行っている整備計画との違いや環境整備による誘客方法を本計画に盛り込む必要がある。</p>	<p>本構想はアウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、長峰山や廃線敷の活用については、該当するゾーニングの中でその方向性や方策の概要のみ記載しております。</p> <p>具体的な誘導策については、観光部局を中心に関連団体と協議しながら検討してまいります。</p>
6	6		<p>P18</p> <p>・長峰山の整備について</p> <p>長峰山山頂への車ルートでは、自転車で山頂まで登っていくサイクリストを見かけたり、観光協会では長峰山山頂から自転車で舗装道路を下る体験コンテンツを造成している。</p> <p>登山道は維持管理の関係で登山者利用であるが、林道を自転車で走りたいというニーズは多いため、里山ツーリズムの一環として自転車用の林道の整備を行い、登山者と自転車利用者との住み分けができる環境整備を進める必要がある。</p>	<p>林道については地形的に幅が容易でなく、安全性を担保するには多角的な検討が必要です。</p> <p>自転車のみならず自動車での通行の面でも林道の利便性向上の必要性は認識していますので、引き続きその方策を検討してまいります。</p>
6	7		<p>P18</p> <p>・天平の森の整備</p> <p>長峰山はトレッキング・サイクリング・パラグライダーなどアクティビティでも多くの方が利用しており、その山頂拠点である天平の森についても、オートキャンプ場化や自転車レンタル、天体観測ドームの活用も計画の中で考慮する必要がある、</p>	<p>本構想はアウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、その他エリア等活用の方向性や方策については、概要のみ記載しております。</p> <p>天平の森については、P21の表中に示した通り「活用できる資源」の一つと捉えており、体験コンテンツの提供等による連携等、今後その活用についても検討してまいります。</p>
6	8		<p>P19</p> <p>・旧国鉄篠ノ井線廃線敷</p> <p>歴史・文化体験ゾーンの中心となる旧国鉄篠ノ井線廃線敷について、東平庵は唯一の休憩場所でもあり、そこから眺める常念岳の風景や建物の中に残る旧国鉄篠ノ井線時代の写真や書物など、廃線敷を見学する上で欠かせないスポットである。今後廃線敷の活性のために必要な場所であり、計画の中で今後の持続可能性についても考慮する必要がある。</p>	<p>廃線敷における同所の重要性や地域への貢献度の高さは認識しております。個人の方が運営する施設であるため、持続可能性について言及はできませんが、今後より良いコンテンツとなるよう連携していきたいと考えます。</p>

7 歴史・文化の活用

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
7	1	○	<p>●歴史文化遺産の活用について（P8 P9 P19 P20）</p> <p>歴史的資産について、明科廃寺や廃線敷に限定した表現となっておりますが、五ヶ用水や寺社等、地域の暮らしに根付いた資産が多くあります。廃線敷等の既存の観光資源に限定するのではなく、市民と共に地域歴史文化遺産を掘り起こし、それらを巡るしくみを構築していく視点が重要だと思います。</p>	<p>ご指摘の視点は必要と考えます。</p> <p>P19「基本方針3」の欄に、歴史文化の「魅力掘り起こしやこれらを巡る仕組みづくり」の文言を追加します。</p>
7	2		<p>P21の自然満喫ゾーンや歴史・文化散策ゾーン以外にも文化的遺産は点在します。</p> <p>例えば廃線敷を中心としたエリアより大足など四賀村からの地域は安曇野に来た先住民のルートという説もありますし、歴史の古い仏像や建物は廃線敷周辺よりむしろ他の地域にあります。まちの中心近くには平安時代の塔があったという説もありますし、長野道の明科トンネルからは内陸では珍しい縄文人の全身の骨も発掘されています。</p> <p>また、廃線敷にはけやきの森のように自然を感じる事のできる場所がありますし、長峰山周辺だけではありません。</p> <p>立地適正化計画(コンパクトシティ)と整合させ、にぎわい合流ゾーンのみ決め、他はゾーンを決めなくて良いと考えます。</p>	<p>ゾーニングについては、各箇所における取組みの方向性をイメージしやすいよう、明科地域内でも知名度が高く来訪者も多い箇所を起点に設定しております。ご指摘のとおり、この他にも歴史・自然資源はあることから、今後ソフト面の充実や地域と連携した体験コンテンツの検討にあたっての参考とさせていただきます。</p>
7	3		<p>・P7： ②北アルプスの眺望と長峰山</p> <p>長峰山以外にも明科各地区の里山には各々史跡があり トレッキングコースを整備している地区もある。 そのあたりもアピールして頂きたい。</p>	<p>明科地域の里山にある知る人ぞ知る史跡探訪のコースについては、地域資源として大きな魅力と活用の可能性があると考えます。アウトドア振興や明科地域活性化の取り組みの中で、情報発信に取組んで参ります。</p>
7	4	○	<p>P8 ③歴史的資源</p> <p>安曇野の他地区と比較して明科の特筆すべき歴史的資源は、明科廃寺に代表される古代遺跡群と言える。しかし残念ながらそれらは現状では目に出来るものではない。これらを可視化する工夫によって、安曇野の古都・明科を訴求する。</p>	<p>歴史資源の掘り起こしに取り組みされている団体等と連携が可能と考えます。</p> <p>P19「基本方針3」の欄の文言を、以下に修正します。</p> <p>「旧国鉄篠ノ井線廃線敷遊歩道を中心に、明科の歴史文化の魅力掘り起こし、これらを学んだり、巡ることができる仕組みづくりを進めます」</p>
7	5		<p>P23</p> <p>②まちなかに案内板の設置とあるが、店舗や施設の案内看板だけでなく、明科の歴史文化に特化した看板を設置したら如何か。明科廃寺をはじめとする古代遺跡が町中から発掘されており、安曇野の京都・奈良とでも言えるような文化財埋蔵地域となっている。現状では目にすることが出来ない遺物発掘地点にQRコードを取り付けた標識等を設置して、それらを巡る考古学散歩マップや看板等を製作したら如何か。センターハウスにも全体像が理解できるようなジオラマなりパネル等を設置する。</p>	<p>歴史文化の看板について、指定文化財にはすでに看板を設置しておりますが、QRコードの活用やマップの作成については、アイデアとして今後の参考とさせていただきます。</p>

8 構想全体へのご意見

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
8	1	○	<p>新聞等で構想を知りましたが、取って付けの漠然としたイメージを感じました。構想自体は素晴らしく、自然と歴史文化の豊かな明科地域の魅力を生かして、安曇野市全体のイメージアップをはかり、東の玄関口として賑わいのある街を創るという素晴らしい構想だと思います。篠ノ井線は長野と松本を結ぶ幹線であり、東京・北陸・名古屋・大阪の大都市圏と繋がっています。19号線も嘗てはタムタムランド・ジギスカン街道と位置付けられていました。</p> <p>全体的に捉えた時に漠然としたイメージを感じる理由を箇条書きにすると下記の通りのことが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー、ハングラライダー、ウォーキングに特化した構想であり、自然や歴史を肌で味わいたいと期待する多くの都市生活者を引き付ける魅力を感じられない。 ・犀川と長峰山と廃線敷を結ぶ導線がない。 ・地元住民や地場産業との関連が薄く、経済効果が期待できない。 ・安曇野市の魅力を多くの人に味わって頂ける構想に欠ける。 ・全体的に楽しみや面白味がない。 	<p>ご意見を参考に、構想P30にお示ししたマネジメント組織の活動において今後検討してまいります。</p> <p>地場産業との関連については、すでに直売所や加工所が地域内で事業を行っているため、これら既存施設の活用を優先していきたいと考えています。</p> <p>拠点施設内に設けるカフェにおいては、地域の産品を活用したメニューの提供を想定しています。P25「①センターハウス」の末尾に、「カフェについては、地場産品を活用し、その魅力が発信できるようなものとします。」の文言を追記します。</p> <p>ゾーンを結ぶ動線については、令和6年3月から土日運行が始まるデマンド交通「あづみん」の利用を促すほか、電動自転車やマウンテンバイクなど移動そのものをアウトドア体験として提供することも今後検討してまいります。</p>
8	2		<p>・P7：＜御宝田水のふるさと公園遊水池（白鳥湖）＞</p> <p>堤防道路が狭いため、事故防止及び環境保護の観点から国道19号より安曇野市自然体験センター「せせらぎ」までの道路と「せせらぎ」周辺に駐車場を整備し、観光客を誘導した方がいいと考えます。</p>	<p>本構想は東部アウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、それ以外の取組みは概要のみ記載しております。白鳥湖周辺の交通状況に関しては、別途検討します。</p>
8	3		<p>龍門淵公園内前川のカヌーが重視されていると思いますが、普段公園内は静かなようです。現在の人の動きは、長峰山山頂及び天平の森・廃線敷の方が多いと思います。</p>	<p>今回アウトドアの拠点を明科地域に整備するにあたっては、市内の他地域にない明科独自の特色と魅力を活かすことに焦点を当てたことから、「水郷明科」を象徴する龍門淵公園・あやめ公園を拠点の場所に選定しております。</p> <p>長峰山や廃線敷は人気の訪問先であり、拠点においても情報発信や来訪者の立寄りを促すサービスの提供を検討してまいります。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
8	4	○	<p>過疎地域の再興が目的である以上、以下の考察（例えるならば“傷口の発見と手当”）が必要ではないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明科地域では、市内他地域と比較して高齢化、過疎化が飛び抜けて進みました。長野市や松本市への鉄道アクセスが良好という地の利があるにもかかわらず、過疎地域指定となった真の原因の分析、つまり、どこにどのような課題があったためにこのような結果を招いたのか、アンケートやその他データに基づき洗い出すこと。 ・本アウトドア拠点整備構想が、上記分析の結果浮かび上がった課題（の全部または主要部分）をどのように解消していくかを示すこと。 	<p>過疎の分析は「安曇野市過疎地域持続的発展計画」の際に行なっています。いただいたご意見を踏まえ、次のとおり文言を修正します。</p> <p>* P 1 冒頭 2 行を、以下に修正</p> <p>「安曇野市の北東部に位置する明科地域は、死亡数が出生数を上回る自然減の常態化に加え、進学や就職をきっかけとした若年世代の大幅な転出超過等の要因により、人口減少と少子高齢化が急速に進行しています。その結果、令和4年4月1日付けで一部過疎地域の指定を受けました。これを受け安曇野市では、地域の持続的な発展を促進するために、安曇野市過疎地域持続的発展計画を策定しました。」</p> <p>本構想に基づき整備する拠点が、拠点のコンセプトに示したとおり「子どもから高齢者まで幅広い世代の人々が地域内外から集まり、まちを巡り、新たな出会いや活動が生まれ巡る場となること、そして、市民自身の明科に対する誇りと愛着を一層深める場となること」で、関係人口の創出や人口流出の歯止めに取り組みたいと考えています。</p>
8	5		<p>●アウトドアの拠点を目指すより…</p> <p>昨年9月の日本経済新聞 電子版より 長野県でキャンプ場開業相次ぐ 市場は成長鈍化：日本経済新聞 https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC317X20R30C23A8000000/</p> <p>ウィズ コロナが終わり アウトドアの利用 伸び率はすでに頭打ちであることは明確である。</p> <p>ブームの後追いではなく 安曇野 明科 ならではの オリジナリティを深掘りし 追求し アウトブットすべき時期と 判断する。</p> <p>例えば、明科廃寺がなぜ 建立されたか といえは 自分は 三川合流地帯が 古代から日本屈指の 鮭の 産卵場所であったと 推定しており 古代から朝廷や都に鮭を献上してきた 地元 有力者の力により 安曇野 明科 はいち早く この地域で発展した象徴として明科廃寺が 存在したと 推測する。</p> <p>リバースポーツは そんな 水 豊かな 安曇野 明科の 水資源 なベースで 存在しているのであり 安曇野 明科の地域活性化は 豊かな水資源を 日本および世界に発信することこそ 重要と考える。</p> <p>リバースポーツなど アウトドアはその手段の一つにすぎず 目的と手段を見誤ると 取り返しのつかない事態に 発展しかねない。</p>	<p>ご指摘のとおり、安曇野の豊かな水とそれにより形成されてきた文化、地域の魅力は、地域の大きな財産でありストロングポイントであると認識しております。いただいたご意見については、今後構想を進める中での参考にさせていただきます。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
8	6	○	<p>●その他</p> <p>全体を通して 今回のプロジェクトは アウトドア関係者… 特に リバースポーツ関係者に 重きを置いている部分が大きく 将来の希望的観測ばかりが明示されているが、公園の敷地を提供する 地元 安曇野明科 住民へのインセンティブや ベネフィットが明確化されていないのが特徴である。</p> <p>カヌー関係者有志で 長年 公園に芝桜を植えたり 落ち葉拾いをしたり 地元 特産品を イベントの景品にするなどの経済活動に貢献し続け 「信用」「信頼」を構築して 現在に至った事実があるが 今回のプロジェクト推進に 関係している メンバーの中で その部分に一体どれほど 主体的に参加 実践して 実情を理解しているのか？「関わったことがある」程度でやっていると自称してはいないだろうか？</p> <p>日本全国で 地元の都市公園で これほど リバースポーツと 融和 共存共栄 できたのは そういった 地道な 地元の人たちとの 長年の交流が存在して 現在に至っているのであり たまたまそう言ったのに目をつけ コンサルタントを呼んで うまく 改造 できるとしたら大間違いである。</p> <p>責任や リスクを背負って 「実践している」と 「関わっている」は 一見 同じなようで 中身は全く違う。</p> <p>それらを理解せず ただ 見た目派手に盛り上がっているから 利用しようという 安易な発案では間違いなく 失敗するのは 必定である。</p> <p>資料 P18 上段 並びに 別紙資料に こちらが主催していた 「安曇野カップ」の 大会 模様の写真が 主催者に 承諾もなく 自分たちに都合が良いからと言って 勝手に引用され 今回のプロジェクトを 推進する 資料として 無断で使用されている。</p> <p>写真 撮影者は たまたま大会を手伝った立場に過ぎず イベントを主体的かつ 責任を持って 主催するものに 何の承諾 もなく ハッキング使用する行為は 社会通念の常識に 照らし合わせても 非常識と言わざるを得ない。</p> <p>このような行為を 資料作成担当者はどのように考えているのか？ 回答願いたい。</p>	<p>本構想は明科地域に整備する拠点として、市内の他地域にない地域資源として「水のアウトドア」に主眼を置いております。いただいたご意見は、これまでリバースポーツ推進に携わってこられたご経験からの貴重なご意見として参考にさせていただきます。なお、P18の写真につきましては、大会の主催団体の構成員の方から提供いただいたものです。画像内に個人を特定できる情報もないことから使用に問題はないと考え採用しましたが、ご意見も踏まえ別の画像に差し替えます。</p>
8	7		<p>P17</p> <p>●アウトドア拠点のコンセプトの案出過程が明瞭でなく、拠点を龍門淵・あやめ公園の周辺に整備するとしたことと同様に唐突感が否めない。公園周辺に設置することに妥当性を欠くとは考えないが、必然性についてもっと言及すべきだ。コンセプトから導き出すのは無理がある。</p> <p>●まちなか分科会のワークショップに3回参加させていただいたが、分科会で意見が煮詰まったという感触はなく、何人かの参加者にも尋ねてみたが、あれで終わったということではなく、ここから始まるという認識だった。また拠点を公園周辺に整備することが前提となっていたなら、その求められる役割や機能について、より具体的な意見やアイデアが出されたと思う。</p>	<p>明科地域は「水郷明科」として歴史や文化が発展してきた背景があり、その河川環境は地域の強みであると考えています。龍門淵・あやめ公園は明科駅から徒歩範囲にあり、河川からもまちなかからもアクセスが良いため、同所を拠点の整備場所に選定しました。</p> <p>分科会でのご意見は、構想のコンセプトや拠点に盛り込む機能の参考とさせていただきます。今後拠点を起点とした賑わいづくりを進めていくにあたり、ワークショップに参加いただいた団体の皆様にもお力添えやご意見を賜りたいと考えております。</p>
8	8		<p>P18～19</p> <p>●「1、アウトドア拠点整備の基本方針」の三つの方針は、「2、明科地域の全体ゾーニング」の三つのゾーンに（写真もあるので）それぞれ対応しているかのように見えてしまう。それぞれのゾーンに対応した基本方針ということなのか、それとも龍門淵・あやめ公園に設置される拠点整備の基本方針なのか明確にする必要がある。</p>	<p>明科地域全体に対応した基本方針になります。</p> <p>本構想を基に整備する拠点を起点に、3つのゾーンが連携した体験コンテンツの検討や情報発信、イベントの開催等を検討してまいります。</p>
8	9		<p>P23</p> <p><人材育成機能></p> <p>選手・プロ。ガイドの育成とあるが、その担い手のイメージが明確でない。明科高校との連携という考え方もあるが、アウトドア専門学校の誘致、または市立学校として設立することは考えられないか。多岐にわたるアウトドア関係のインストラクターを養成するアウトドア専門学校は全国的にも珍しく注目を集めると思われる。</p>	<p>人材育成の担い手としては、今後立ち上げるマネジメント組織及び地域クラブを想定しております。現時点で専門学校等の誘致や設立の想定はございません。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
8	10	○	P3.P5 ・本事業の趣旨は過疎状態の打破とあるが、本計画ではアウトドア拠点のみがフォーカスされ、明科地域の活性化の目標が見えてこない。過疎状態の打破に向けて、具体的に何年後に人口を何パーセント増やすなど数値的目標と施策・過程を設定する必要があるのではないか。	本構想は、「安曇野市過疎地域持続的発展計画」（以降、過疎計画）に示した「ウォータースポーツ推進施設整備事業」及び「アウトドアスポーツ拠点施設整備事業」を実施するための個別構想となります。明科地域の過疎対策における数値目標は過疎計画において示しておりますので、P1の「1 基本構想の趣旨」末尾に引用し記載します。
8	11		P28 ○宿泊施設計画について ・賑わいエリアにおける宿泊施設も検討されているが、具体的ターゲット、そのターゲットの想定人口などのマーケット調査等を綿密に計画する必要がある。 ・施設の老朽化についての管理計画は指定管理の場合、条例による宿泊金額の上限があるため運営が難しいと考えられる。	ターゲットとしては、合宿や企業研修等の団体受入等を想定し計画していきます。 施設の老朽化対策については、現状評価から保全計画を作成し、重要度に応じて修繕を行なっていく考えです。
8	12		○基本構想案では、安曇野市の基本計画・現在進行している諸計画との連携であったり、取り組みの方向性の記載が弱いように見える。本計画明科地域に対して・安曇野市全体に対してのどう影響するかや、本構想案ではゾーニングは示されているが、それぞれがどういった方向性に進むかの記載が乏しい。	本構想では詳細に記載しておりませんが、P2に示した総合計画や観光振興ビジョン、過疎地域持続的発展計画等に沿ってアウトドアスポーツの振興や観光の活性化等を推進するものです。 本構想はアウトドア拠点の整備方針を示すものであり、ゾーンごとの方向性については概要のみ記載しております。

9 その他のご意見

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
9	1		<p>観光地としての良さは「住みやすさ」や、「住みたいと思う気持ち」とは別ではないかと感じました。</p> <p>観光地として人に勧めたいと思う場所は現在も確かにあり誇りなのかもしれませんが、住む場所として勧めたいかは、今のところ繋がらないと感じています。正直それよりも、居住環境を良くしたり子育て支援、子育て環境を良くして頂きたいと思っています。現在は少々住みにくさ、子育てするうえでの不安があります。</p> <p>以下に具体例を記載します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が遠い 通学路に危険な箇所がある 交通量の多い道路沿い（糸魚川連絡道路の工事が始まると工事車両などさらに増えるのでは？）、歩道が狭く柵などもない、線路沿いにも柵がない箇所、小さい踏み切りも危険 ・夜間の街灯が少ない 大人でも怖い、車でも見通しが悪い／真っ暗だと治安が悪い印象を受ける ・公共交通機関の不便さ 夜電車を利用した際、家までの帰宅手段は徒歩、自家用車（ただし駐車場は少ない）、自転車（夜道は前記のように危険、不安）、飲酒していたり免許が無ければ送迎しかない、タクシーも少ない 免許返納した高齢者なども不便だと思います。あずみんなどは呼ばなければいけない ・高速道路近いが渋滞、騒音がある 高速道路は近いですが光橋などは毎朝通勤渋滞です。 また、明科光在住ですが高速道路からの音は風向きにより夜間など特にかなり聞こえます。 （高速道路を走る緊急車両の音など、近所に来たのかと思うくらいです） 糸魚川連絡道路ができればさらにそういった地区が増えるのでは？と思います。 <p>アウトドア拠点の整備をしてついでに（ついででいいのか？と思いますが）街全体が便利になり安全になり、上記のような住みにくさの要因が取り除かれれば良いと思いますが…。</p>	<p>本構想は、東部アウトドア拠点整備の方向性を示すものであるため、ご指摘の各種課題については関係部局に共有し、明科がより住みやすい地域となるよう対応してまいります。</p>

分類	枝番	構想 修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
9	2		<p>3ゾーンの周遊を促す為にブス平を加えた大足区「大足川辺の遊歩道」の追加を提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬古田大駐車場 <p>城山入口からストックヤードに通じる道の延長線に橋を架け、対岸の荒廃地を整地して大駐車場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃線敷トレール <p>大駐車場と筑北村間に観光トレールを走らせる。篠ノ井線高架下から廃線敷入口にかけて特設ルートの施工が必要となる。要所に駅を設け、白坂トンネル内を最大限に活用して歴史観光名所とする。（歴史・光と闇の異空間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バーベキュー・特産品販売エリア <p>地元の畜産物や野菜や炭を活用したバーベキュー場と特産品の販売・総合案内場を設け、高齢者の職場と地場産業の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吊り橋 <p>瀬古田からブス平に抜ける吊り橋を架ける。ブス平には大逆事件の現場と八面大王の足塚と荒廃農地をサフォークで解消した羊牧場と農場があり、柳瀬団地（県道）と会田川を渡ってのどかな堤防道路を散策できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常会の山（展望地） <p>漆堂の山道を整備して平常会の山まで登山する事が出来れば、安曇野市とアルプスの絶景を展望できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まねきバス <p>大足より清水・矢の沢の農山村地帯を歩いて天平の森・長峰山山頂にトレッキングする事が出来ます。距離が長いので、疲れた時に気軽に乗れる周遊バスの運行が必修となります。これにより誰でも安心して歩くことが出来るようになります。</p> <p>駅→駐車場→吐中→大足→清水→矢の沢→天平の森→山頂→駐車場→駅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塔之原城跡 <p>塔之原城跡は安曇野を展望できる高台であり、長峰山山頂まで行かずとも安曇野の絶景を展望できる場所であり、特産エリアからロープウェイで結ぶ事も可能かと思われます。天守閣が観覧車を設ければ新しい観光名所となります。</p>	<p>バーベキューエリアに関しては、龍門淵公園・あやめ公園の「憩いエリア」のキャンパススペース、または拠点施設内のカフェ機能の一環として検討します。</p> <p>その他のご提案については、明科地域の活性化のアイデアとして今後の参考とさせていただきます。</p>
9	3	○	<p>アウトドア構想の拠点</p> <p>将来的な構想としては、予算的・現実的な事を考慮すれば、ジバさん館と塔之原城の復元に限定されるかと思います。</p> <p>ジバさん館</p> <p>地産地消の地場産館と常設生き生きサロンの爺婆さん館を併設したものであり、明科地域に住む高齢者が集まり生き生き活動を行う拠点となり、社会福祉協議会と連携出来ると思います。活動の一つとして地産地消の地場産物を盛り上げるという使命感（生き甲斐）を持たせます。（龍門淵テラスと協働）</p> <p>明科にしかない地場産物を作り出し、販売して地場産物を活性化させる。そこにアウトドアの要となるバーベキューハウスを併設します。炭・地場の畜産物（牛肉・豚肉・羊肉・卵）・（米・地粉・そば粉）・野菜（ファーマーズガーデンと協働）を活用する事により地域と来場者により賑わいを作り出す。</p> <p>人が集まれば、そこを拠点として情報発信をして廃線敷・長峰山・大足へと来場者を誘引する事が出来ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点となる要素を再発見して育成する事が事業の発展へと飛躍する。 ・個々の活動が一堂に集まって新しい発想と活力を生み出す拠点とする。 	<p>拠点施設内に設けるカフェにおいては、地域の産品を活用したメニューの提供を想定しています。P25「①センターハウス」の末尾に、「カフェについては、地場産品を活用し、その魅力が発信できるようものとします。」の文言を追記します。</p> <p>なお、地場産館等の施設については、すでに直売所や加工所が地域内で事業を行っているため、新たに整備することは想定しておりません。</p>

分類	枝番	構想修正	意見・質問（概要）	市の回答・考え方
9	4		<p>塔之原城の復元 安曇野から明科を見た時にランドマーク的な存在が必要だと思えます。 塔之原城址は明科駅裏手の小高い高台にあり、長峰林道からの歩道を整備するのと、大足区吐中から開設した林道を整備すれば手頃な登山コースとなります。景観的には北アルプスと三川合流と安曇野全域が展望できる名所となる。その存在を知らせる為に天守閣風な展望台があればよいと思えます。歴史的には山城ではありますが、岐阜城の様なイメージを作り出す事を望みます。また、城山公園は桜の名所として現存しますが、今は廃れ切っています。この城山公園と合わせて明科のシンボルとして復元する事を望みます。 手軽に長峰登山を楽しんだ人の延長線上に長峰山山頂があります。山歩きや廃線敷歩きを楽しみたい人と水遊びを楽しみたい人との双方の拠点としてアウトドア構想に広がりを持たせる事が出来ると思えます。 仮に登山者がいなかったとしても、安曇野からのランドマーク的な存在となり、新たな観光スポットとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡の開発についての注意点は何か ・ 林道の開設と城址を開拓するのに森林組合などと連携がとれるのか 	<p>今回アウトドアの拠点を明科地域に整備するにあたっては、市内の他地域にない明科独自の特色と魅力を活かすことに焦点を当てたことから、「水郷明科」を象徴する龍門淵公園・あやめ公園を拠点の場所に選定しております。 その他のゾーンにおける大規模な施設整備の予定はありませんが、アイデアの一つとして参考にさせていただきます。</p>
9	5		<ul style="list-style-type: none"> ・ P 6：(3) 明科地域の資源 7ページから9ページ以外でも資源となる得ものがある。 特に荻原地区は夜の灯りが少なく、冬の夜空は天の川が目視できるほどである。 	<p>明科地域には、基本構想に記載しきれない多くの魅力があるため全ての項目は列記できませんが、ご提案については、賑わいづくりに活用可能な地域資源の一つとして参考にさせていただきます。</p>
9	6		<p>長峰荘は利用できないか</p>	<p>宿泊施設が少ない明科地域において、長峰荘は貴重な宿泊施設の一つであります。現在は民間事業者により運営されていますが、共に明科地域を盛り立てていただく連携事業者の一つになり得ると考えます。</p>
9	7		<p>天平の森に来た都会のお客様から長峰山で楽しく過ごしたが、こどもの遊べるせせらぎの水辺はないかと聞かれることがある。</p>	<p>P26のイメージ図にお示ししたとおり、今回の拠点整備の中でお子様が水に親しめる水辺の整備を盛り込んでいます。</p>
9	8		<p>この構想（案）とは別の視点から考えていかないと明科地域の活性化にはつながりません。これ以上の人口減少を抑制する施策が求められます。明科地域には宅地造成する土地が限られています民間業者との協力で宅地開発を進めていただきたいです。空家対策も課題です。湖区のような利便性が良い所でも空家が増加しています。在宅ワークや田舎暮らしをしたい人達に積極的に情報発信してください。また、遊休農地を「市民農園」として活用できないか関係部局間で検討してください。鳥獣駆除解体施設の建設とジビエ料理を提供する店の開業の後方支援をお願いします。大足区の竹林整備、6次産業による商品開発、販売で特産品化を目指すなどして、アウトドア拠点整備基本構想（案）と連動して施策を講じていくことが重要であると考えていきます。</p>	<p>土地利用や有害鳥獣対策等に関しては、先に策定した「安曇野市過疎地域持続的発展計画」の施策として記載しております。いただいたご意見は過疎対策推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>
9	9		<p>P23 ・ 街の中の空き家を飲食店や宿泊施設に利用するとある。そのためには明科の町中に店舗を開きたいという事業者が必要である。新規開業等は商工会や商工労政課とも情報共有をして創業支援等を活用した事業者を増やす計画も必要ではないか。</p>	<p>本構想を基に整備する拠点が、地域での操業を促す存在となることを目指しています。 創業支援については、明科地域に関わらず全市的に支援制度の充実等に取組んでまいります。</p>
9	10		<p>○地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」について 今後建設される地域高規格道路「松本糸魚川連絡道路」との関連が計画に入っていないため、交通の流れの影響を考慮する必要があり、道路利用者を呼び寄せるための施策を考える必要はあると考える。</p>	<p>松本糸魚川連絡道路「安曇野道路」の整備により、さらに交通面の利便性が高まると考えております。道路利用者を呼び寄せる施策は、今後道路完成の時期を踏まえ検討してまいります。</p>